

Art

InRed® It's Culture Time!

おもしろ1テーマで
展開する個性派の
展示会が登場

原田マハの 30代女子に効くアートサプリ Monthly Theme: シュールを探検する

「シュルレアリスム展

ーパリ、ボンビドゥセンター所蔵作品によるー



© 2010-succession Pablo Picasso-SPDA(JAPAN)
Collection Centre

シュルレアリスムは、偶然性、夢、幻想、神話、共同性などを鍵に、人間の無意識の世界の探求をおこない、日常的な現実を超えた新しい美と真実を発見し、生の変革を実現しようと試みるもの。20世紀最大の芸術運動のひとつで瞬時に世界中に広まった。芸術の境を越えたシュルレアリスムを体験できるチャンス。

開催中～5月9日(月) ※火曜(ただし5月3日は開館) ※東京都港区六本木7-22-2 ※国立新美術館 ☎03-5777-8600(ハローダイヤル)

「生誕100年 岡本太郎展」



© 岡本太郎記念現代芸術振興財団

今年岡本太郎の生誕100年にあたる。岡本太郎といえば、1970年の大阪万博のシンボル「太陽の塔」、や「芸術は爆発だ」をはじめとするインパクトにみちた発言など衝撃と夢をくれた芸術家。世間から冷笑、批判を受けることもあったエネルギーあふれる作品は今の時代だからこそ受け入れられるのではないだろうか。

開催中～5月8日(日) ※月曜(5月2日は開館) ※東京都千代田区北の丸公園3-1 ※東京国立近代美術館 ☎03-5777-8600(ハローダイヤル)



原田マハさん
ナビゲーション
作家、インディペンデントキュレーター「ランウェイ・ビート」(文庫版 小社刊)好評発売中。映画も3月19日全国ロードショー。ツイッター (@haradamahoh) も必見。

**反逆の精神がうみだす
シュールな世界像をのぞく**
渋谷駅に展示された壁画「明日への神話」、関連本のベストセラー、ドラマの放映。没後15年、生誕100年を迎えた岡本太郎は、ますますパワーをみなぎらせ、その作品も生き方も、いまなお注目され続けている。「生誕100年 岡本太郎展」は、岡本太郎の全貌を、プロ

ローグ「ノン」エピソード「受け継がれる岡本太郎の精神」のふたつのパートで挟みつつ、七つの「対決」に分けて暴く試みだ。両親ともに芸術家の家に生まれた岡本太郎は、その生涯を通して、芸術と激しく対決し、ぶつかり合い、その火花から新しい創作への糸口を見つけ出してきた。大阪万博のシンボルタワー「太陽の塔」ですら、万博のテーマ「人類の進歩と調和」と対決するために生み出さ

れたと知って驚かされる。この反逆の精神こそが、太郎独特の芸術と社会への警鐘だったのだろう。
青春時代にパリに遊学した太郎は、ピカソやシュルレアリスムの作品に大きな影響を受ける。そんな観点から「シュルレアリスム展」を見るのも興味深い。芸術が現実を超えた軌跡を展覧できる二大企画から目を逸らすなかれ!

最新おしゃれギャラリー情報

「森と芸術 ～私たちのひそむ森の記憶～」



アンリ・ルソー 「エデンの国のエヴァ」
1906-1910年 ポーラ美術館所蔵

森は人間の故郷であり、生活資源の宝庫。聖なる場所、英国、メルヘンの舞台など多くの役割を果たして絵画の世界でも重要視されてきた。そんな森をテーマに写真や絵画、絵画など総数約180点で展開する。

4月16日(土)～7月3日(日) ※第2・4水曜
東京都港区白金台5-21-9 ※東京都庭園美術館 ☎03-3433-0201

「アンフォルメルとは何か? ～20世紀フランス絵画の挑戦展」



ジャン・デュブッフ 「熱血漢」 1955年、
徳島県近代美術館 ©ADAGP, Paris & SP
DA, Tokyo, 2011

第二次世界大戦後のパリでおこった前衛的絵画運動、アンフォルメル。壁面を思わせるような粗い下地に落書きをするように描き出したスタイルが「不定形なもの」を意味する「アンフォルメル」と表現されたように感性鋭い作品が並ぶ。

4月29日(金)～7月6日(水) ※月曜 ※東京
都中央区京橋1-10-1 ※「ブリヂストン美術館」
☎03-5777-8600(ハローダイヤル)

「宝石サンゴ展」



微笑む月 所蔵及び©CAZZANIGA

深海のジュエリーといわれるサンゴ。宝石サンゴはその骨格を産く美しい光沢がでることから、紀元前から宝飾品などとして洋の東西を問わず珍重されてきた歴史をもつ。貴重な標本、文化史資料、現代のジュエリー作品など多岐にわたり展示。

開催中～5月29日(日) ※月曜(5月22日は開
館) ※東京都台東区上野公園7-20 ※国立
科学博物館 ☎03-5777-8600(ハローダイヤル)

Book

InRed® It's Culture Time!

日常ライフにひとさじの
刺激と冒険を与えてくれる
BOOKたちをご紹介

このひと言に共感! インレッド的女子のための本棚

**紡ぎたいのは
胸を震わす言葉**
剥き出しの文章にはいつも心震わせられる。生きることの悲しみ、愛することの尊さ、時の流れの無情さといったものを綴る無防備な文章に胸が締め付けられるのは、私の内なる想いと呼吸するから。「バルザックと小さな中国のお針子」も、そうしたあらわな描写が頻出する。冊子から来たふたりの青年との出会いにより、西洋文学が語る自由をめざめ、やがて彼らの元から羽ばたく過程で、それぞれの心に去来する想いに幾度となく胸を打たれる。言葉や音を扱うことを生業としている私にとって最も大切なことは、文章やメロディーで人の心の琴線に触れること。それを可能にするのは、物事に潜む美しさを恐ろしさを感じるとる繊細さと、その偉大さの前に崩れ落ちぬ強さだ。どこまでも飛翔するお針子の姿と、それを描く美しい筆致に触

れるたび、そのことを改めて心に刻まされる。また、読むたびに表現者であることの真価を問われる作品として、豊かな感性と奔放さを兼ね備えた主人公の豪胆な生き様に魅せられる「火宅の人」を挙げたい。色に溺れ、周囲の心を掻き乱しながらも欲望に忠実に生き、心の機微を曝す壇の姿勢には、ただただ触発されるばかり。たとえ背徳ぶりで多量に侮蔑されようと、ひとりでもいい、誰かの心を奪うことができたら、書き手としては本望なのだから。



松本玲子さん
ライター
ライター、ナレーターとして各種媒体、CM等で活動中。http://www.reico.org バンドでVoをつとめる一面も。HPはこちら http://swaraga.com



「バルザックと小さな中国のお針子」

文化大革命の下放政策により、山奥で再教育を受けることになった「僕」は、厳しい労働を続けるある日、まだあどけなさを残る美しいお針子に出会う。たちまち恋に落ちた「僕」は、彼女の知欲を満たすために禁断のバルザックを手に入れ、哀しい恋の物語を読み聞かせるが...

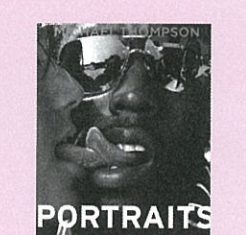


「火宅の人」(上)(下)

「最後の無頼派」増一雄が、自らをモデルにした主人公・桂一雄の放蕩人生を描いた遺作。妻と3人の子がおりながらも愛人の元に入り浸り、通俗小説を執筆しながら放浪を続ける様子を流麗かつユニークな文体で綴っている。ちなみに「火宅」とは仏教用語で、煩惱や苦しみに落ち、火災に包まれた家のような状態にあることをいう。

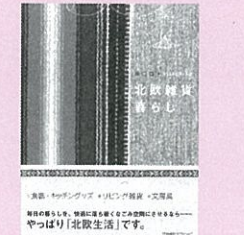
今月のオススメ新刊

「PORTRAITS」 Michael Thompson/DAMIANI



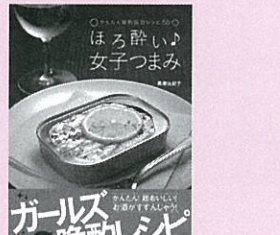
コマーシャルフォトの鬼才、マイケル・トンプソンが撮影したセレクトポートレート写真集になって登場する。女優やミュージシャン、モデルなど世界のセレクトリティが68人集った1冊。写真はVOGUEやGQ、Harper's Bazaarなどが採録された。フランフラン(一部店舗)、バルストーンキーはライフスタイルショップで販売。

「北欧雑貨暮らし」 TOKIMEKIハブリッキング



ほっこり女子なら気になる1冊をご紹介。日本でも人気の北欧雑貨ブランドの紹介や食、リビング、バス&掃除、ファッション、ステイションなど1冊の中にさまざまなアイテムがぎっしり。そのほかフィンランド大使館夫人インタビューや北欧ショップガイドなどもあり、北欧生活をしていく気分させてくれる。

「ほろ酔い女子つまみ 黒瀬佐紀子著/徳間書店」



フードスタイリスト黒瀬佐紀子さんが手間なしレシピを仕入れた女子のために考案してくれた1冊。缶詰を使用し、ちょっとしたアレンジでステキなおつまみができる。ほとんどのレシピが10分以内でできてしまう。中には2分というものも。晩酌のお供に迷ったら参考にしてみたいかが。